

平成28年度に協議・調整を進めてきた連携事項(一覧表)

参考資料

事項名	平成28年の取組み実績	平成29年度取組み		平成30年度以降の展開
		取組内容	予算(千円)	
オリンピック・パラリンピックを契機とした「まちづくり」「ひとづくり」	<p>(方向性1)大会機運の高揚</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リオオリンピック・パラリンピック報告会 (小学校2校) ・リオ2016パラリンピック競技大会日本代表選手団壮行会参加(エスコートキッズ) (小学校8校) ・リオ2016パラリンピックパブリックビューイング (小学校2校) <p>(方向性2)体力向上・健康づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トップスポーツチームとの交流事業 ・JOCオリンピック教室 (中学校1校) ・パラリンピアン等との交流、障害者スポーツの試合観戦 <ul style="list-style-type: none"> * 障害者アスリート交流キャラバン (小学校2校) * 障害者アスリートによる学校訪問 (小中学校20校) * ウィルチェアラグビーの試合観戦 (小学校3校、中学校1校) <p>(方向性3)多様性理解教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピック関連の題材・教材を使った道徳等授業の展開、充実 ・障害のある人が障害の特性や配慮について説明する福祉講話の実施 <p>(方向性4)国際理解教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際交流ボランティア育成のための講座開催 <p style="text-align: right;">他</p>	<p>(方向性1)大会機運の高揚</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピック学習読本等を活用し、オリンピック・パラリンピックの意義や歴史を学習(計画立案) ・教員研修の充実(パラリンピック競技の体験など) ・都市ボランティアの体制構築 <p>(方向性2)体力向上・健康づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検討委員会を設置し、教科体育・保健体育におけるオリパラ教育の課題の検討とモデル校での実践 <ul style="list-style-type: none"> * 保健体育の授業における「体育理論」学習の充実、スポーツの多様性を学習 * 体育・保健体育における障害者スポーツの実施(小中学校各6校のモデル校で実施) * 車椅子バスケットボール実施に向けた検討(小中学校各1校モデル校で実施) ・トップスポーツチームとの交流事業(小学校100校程度) ・パラリンピアン等との交流、障害者スポーツの試合観戦 <ul style="list-style-type: none"> * 障害者アスリート交流キャラバン (小学校対象、JPSA主催) * 障害者アスリートによる学校訪問(車椅子体験を含む) (小中学校50校) ・健全者と障害者の混合スポーツ交流会開催(4回程度) <p>(方向性3)多様性理解教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピック関連の題材・教材を使った道徳等授業の展開、充実 (中学年用教材作成) ・障害のある人が障害の特性や配慮について説明する福祉講話の実施 ・競技用車椅子の体験 <p>(方向性4)国際理解教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際交流ボランティア育成のための講座開催 ・英語教材「Omotenashi(おもてなし)カード」作成教材の検討 <p style="text-align: right;">他</p>	<p>41,371</p> <p>研修費、指定管理者委託等除く</p>	<p>(方向性1)大会機運の高揚</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピック学習読本等を活用し、オリンピック・パラリンピックの意義や歴史を学習(授業展開) ・教員研修の充実(パラリンピック競技の体験など) ・都市ボランティアの募集、育成、実践 <p>(方向性2)体力向上・健康づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科体育・保健体育におけるオリパラ教育の実践 <ul style="list-style-type: none"> * 保健体育の授業における「体育理論」学習の充実、スポーツの多様性を学習 * 体育・保健体育における障害者スポーツの実施(学校の状況に応じて順次拡大し、全校で実施) * 車椅子バスケットボール実施に向けた検討(モデル校での状況に基づいて検討) ・トップスポーツチームとの交流事業(小学校100校程度) ・パラリンピアン等との交流、障害者スポーツの試合観戦 <ul style="list-style-type: none"> * 主催者であるJPSAと連携し「アスリート交流キャラバン」を小学校で展開 * 障害者アスリートによる学校訪問(車椅子体験を含む) (31年度までに小中学校全校で実施) ・健全者と障害者の混合スポーツ交流会開催(4回程度) <p>(方向性3)多様性理解教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高学年用のパラリンピック関連の道徳教材を作成。低・中・高学年用の教材により授業を展開 ・障害のある人が障害の特性や配慮について説明する福祉講話の実施 ・競技用車椅子の体験 <p>(方向性4)国際理解教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際交流ボランティア育成のための講座開催 ・英語教材「Omotenashi(おもてなし)カード」を活用した国際交流 <p style="text-align: right;">他</p>

平成28年度に協議・調整を進めてきた連携事項(一覧表)

参考資料

事項名	平成28年の取組み実績	平成29年度取組み		平成30年度以降の展開
		取組内容	予算(千円)	
地域社会全体で子どもの成長を支える仕組みの整備	<ul style="list-style-type: none"> ○磯辺、菅田の2地区6校で学校支援地域本部事業を展開 磯辺三小、菅田東小、菅田中に新設 ○他自治体(宝塚市・廿日市市)の取組みの視察 ○「地域連携事業推進会議」開催 【協議内容】 今後の学校・家庭・地域の連携のあり方について 平成29年度の学校支援地域本部事業の設置候補校について ○地域運営委員会との連携について検討 ①基本的な関わり方 地域の実情に応じて地域運営委員会と学校支援地域本部の連携を図る。 ・地域人材の発掘や紹介 ・学校支援地域本部と地域関係団体との関係強化 ②学校支援地域本部等の拡充に際し、地域運営委員会を窓口とした地域へのアプローチ手法 ③課題 ・地域運営委員会のエリアと学区の異なる地域での連携 ・地域運営委員会の組織体を活用した学校支援地域本部のあり方 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校支援地域本部事業の拡充を目指し、4地区10校に地域教育協議会を新設し、既に実施している地区と合わせ6地区16校での学校支援地域本部事業を展開する。 ○地域の実情に応じた地域運営委員会との連携のあり方について検討する。 	1,031	<p>第二次学校教育推進計画に沿って、各地域に応じた学校・地域の連携組織の設置を進める。</p> <p>平成30年度 全市 小・中学校の3割 平成33年度 全市 小・中学校のすべて</p>
子どもたちの放課後等の充実について	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後子ども教室モデル事業(総合コーディネーターによる活動支援)の実施:10校 ・保護者へのアンケート調査、協力者のヒアリング ・「待機児童解消のための緊急3か年対策」開始(子どもルーム) ・他自治体(板橋区、港区)の取り組みの視察 ・放課後子ども教室と子どもルームの一体型モデル事業の実施に向けた協議・検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○放課後子ども教室モデル事業(10校)の継続実施 :各校の負担軽減を図るため支援体制を強化 ○子どもルームの拡充・民間事業者への補助制度創設 :待機児童解消のための緊急3か年対策に基づく取組み ○放課後子ども教室・子どもルーム一体型モデル事業の実施 :稲浜小学校(ルーム未設置校)において実施 ○放課後子どもプラン(仮称)策定に向けた検討・協議 	<p>45,125 (子ども教室) 45,000 (子どもルーム 拡充) 14,158 (民間事業者 補助) 19,586 (一体型)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○放課後モデル事業 ・平成30年度～ 全校に順次拡大の予定 ○子どもルーム ・待機児童解消のための緊急3か年対策の継続実施 ○一体型のモデル事業 ・平成30年度 モデル事業の継続及び検証 ・平成31年度 モデル事業の結果等を踏まえ、順次拡大の予定
地域経済・地域産業を支える人材の育成・確保	<ul style="list-style-type: none"> ○庁内外の関係機関と連携・協働して生涯を通じたキャリア教育を推進するため、キャリア教育推進連携会議を開催(3回)。 【協議内容】 ・各学校種でのキャリア教育の現状と課題について (小・中学校、高校、大学、専門学校、社会人の学び直し) ・その他、キャリア教育の推進に必要な事項に関すること。 ○既存施策の改善や新規事業展開の準備・実行。 ・キャリア教育モデルプランの作成 ・教員研修プログラムの開発 ・ちばっ子商人育成スクール (キッズ・アントレプレナーシップ教育の推進) ・合同企業説明会、企業見学バスツアー等の開催 等 ○推進連携会議での意見を踏まえての方針策定。 	<ul style="list-style-type: none"> ○策定した基本方針に基づき、「キャリア教育推進連携会議」の意見を踏まえながら、教育委員会と経済部を中心として、主に小中学校及び高等学校における既存施策の改善や新規事業展開を実行。 ・年間3回程度の推進連携会議を開催 ・キャリア教育モデルプランの完成・周知 (キャリア教育ガイドブック作成、全教員への配付) ・キャリア教育主任研修会開催 (小中間の連携強化、モデルプランの活用方法等指導) ・教員研修プログラムの開発(見直し) ・学習支援資料の作成(内容の更新) ・ちばっ子商人育成スクール (キッズ・アントレプレナーシップ教育の推進) ・合同企業説明会、企業見学バスツアー等の開催 等 	12,379	<ul style="list-style-type: none"> ○基本方針に基づいて各施策・事業を実施。「キャリア教育推進連携会議」の意見を踏まえながら、各施策・事業の改善等。

平成28年度に協議・調整を進めてきた連携事項(一覧表)

参考資料

事項名	平成28年の取組み実績	平成29年度の取組み		平成30年度以降の展開
		取組内容	予算(千円)	
本市のアイデンティティ醸成につながる郷土教育等の推進	<p>○方向性1 「千葉氏」「加曽利貝塚」等の魅力の掘り起し・魅力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加曽利貝塚総括報告書及び保存活用計画書を刊行し、特別史跡指定について国へ申請(意見具申) ・千葉開府890年記念式典(6月1日)、千葉開府祭(6月4日)の開催 ・千葉氏サミット(8月21日親子三代夏祭りと同じ)の開催、あわせて郷土博物館での企画展の開催 ・千葉開府900年となる2026年を目標年次とする「都市アイデンティティ戦略プラン」を策定 <p>○方向性2 学校教育における郷土教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マンガ「千葉常胤公ものがたり」の小学校低学年での読み聞かせ、中学年以上の読書による活用 ・学校便り等による保護者への啓発 ・小学校6年生及び中学校1・2年生の社会科における、千葉氏に関する実践事例や千葉市独自の副読本の一層の活用促進 ・千葉市立小・中・特別支援学校における「千葉開府の日」についての校内放送による説明(6月1日) ・総合的な学習の時間における郷土教育の単元開発 ・中学校3年生の道徳において教材「千葉市に生きる」を活用した授業の実施 ・校外学習や出前授業での博物館等の活用促進 ・教員への郷土教育推進に係る研修の実施及び資料の提供 ・学校給食「千葉開府890年給食」の実施 <p>○方向性3 郷土教育の拠点としての博物館の充実及び利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加曽利貝塚博物館で開館50年縄文まつり、企画展、土器ドキ発掘体験を実施 ・郷土博物館での企画展の開催や市内小中学校への館内解説・体験学習・出前授業を実施 <p>○方向性4 市民の目にとまる情報発信や講座・イベントの拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縄文フォーラムの開催、加曽利貝塚の一般向けパンフレットの作成 ・マンガ「千葉常胤公ものがたり」の公共機関での閲覧と販売 ・親子三代夏祭りにおけるPR(関係都市の出展、甲冑武者パレード) ・ちば市政だよりなど広報紙での「加曽利貝塚」「千葉氏」の特集記事を掲載 	<p>○方向性1 「千葉氏」「加曽利貝塚」等の魅力の掘り起し・魅力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ●加曽利貝塚で新たな発掘調査及び見学会の実施 ●加曽利貝塚史跡整備基本計画の策定 ●千葉氏に関する史料整理 ●千葉氏フォーラムの開催 ・郷土博物館での企画展の開催(戦国時代の千葉氏を紹介する展示を予定) <p>○方向性2 学校教育における郷土教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マンガ「千葉常胤公ものがたり」の小学校低学年での読み聞かせ、中学年以上の読書による活用 ・学校便り等による保護者への啓発 ・小学校6年生及び中学校1・2年生の社会科における、千葉氏に関する実践事例や千葉市独自の副読本の一層の活用促進 ●千葉市立小・中・特別支援学校に加え、市立高校2校における「千葉開府の日」についての校内放送による説明(6月1日) ・総合的な学習の時間における郷土教育の単元開発 ・中学校3年生の道徳において教材「千葉市に生きる」を活用した授業の実施 ・校外学習や出前授業での博物館等の活用促進 ●市立高校2校で「千葉氏や鎌倉時代」に関する日本史特別授業を実施 ・教員への郷土教育推進に係る研修の実施及び資料の提供 ●下敷き「ちばしのじまん」の小学校3年生への配付 ●千葉市の魅力を紹介する絵本の配付(小学校、保育所、幼稚園等) ●学校給食「千葉氏ゆかりの都市の郷土料理」の実施 <p>○方向性3 郷土教育の拠点としての博物館の充実及び利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加曽利貝塚博物館での土器づくりや復原住居等を活用した縄文時代の生活体験を実施 ●市内小中学校への館内解説、鎌倉時代の大鎧を活用した体験学習などを実施 <p>○方向性4 市民の目にとまる情報発信や講座・イベントの拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ●加曽利貝塚シンポジウムの開催 ●加曽利貝塚での集客プロモーションの実施 ●歴史講座や鎌倉騎馬武者体験等の実施 ・親子三代夏祭りにおけるPR(関係都市の出展) ・ちば市政だよりなど広報紙での「加曽利貝塚」「千葉氏」の特集記事を掲載 	<p>●は新規事業</p> <p>12,400 (政策調整課) ※左記以外のもも含む</p> <p>101,741 (文化財課)</p>	<p>○方向性1 「千葉氏」「加曽利貝塚」等の魅力の掘り起し・魅力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加曽利貝塚の史跡整備 ・計画的・継続的な発掘調査と縄文貝塚文化研究の推進 ・千葉開府啓発事業の実施(6月1日) ・千葉開府900年までの節目の年で千葉氏サミットを開催する ・千葉氏フォーラムの開催 ・「都市アイデンティティ戦略プラン」に基づく施策の展開。 ・4つの地域資源を紹介する映像を活用したプロモーション <p>○方向性2 学校教育における郷土教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千葉氏及び加曽利貝塚についての継続した指導を行う。 ・市内の高校で「千葉氏や鎌倉時代」に関する日本史特別授業を実施 ・下敷き「ちばしのじまん」の小学校3年生への配付(毎年) <p>○方向性3 郷土教育の拠点としての博物館の充実及び利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加曽利貝塚博物館における土器ドキ発掘体験など <p>○方向性4 市民の目にとまる情報発信や講座・イベントの拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加曽利貝塚シンポジウムの開催 ・親子三代夏祭りにおけるPR(関係都市の出展) ・都市アイデンティティ戦略に係る、効果的・効率的な情報発信に努める。